

和7年度第4回亀岡市まちづくり協働推進委員会 会議要旨

日時：令和8年2月16日10:00～12:00

場所：亀岡市役所302・303会議室

- 1 開会
- 2 新委員の紹介
- 3 協議

(1) 令和7年度実施事業報告及び予定について

○事務局

令和7年度実施事業報告及び予定についてについて説明

資料：令和7年度実施事業について、令和7年度はじめてのまちづくり活動応援プログラム（亀岡市支えあいまちづくり協働支援金）申請事業概要一覧、市民活動交流会報告、市民活動見学会報告

○委員1

令和7年度今後の予定について説明

○委員長

今年度の事業報告について、質問や意見があればお願いしたい。

○委員2

資金調達講座について、参加した市民活動団体の数や参加者の内訳を教えてください。

○事務局

開催日の4月10日には5つの市民活動団体から合計8名が参加した。そのうち3つの市民活動団体が実際にいずれかの助成金に申請した。

○委員2

亀岡市支えあいまちづくり協働支援金の報告について、これまでと同様にホームページ等で報告を掲載する予定があるか教えてください。

○事務局

今回もホームページ上に掲載する予定である。亀岡市支えあいまちづくり協働支援金を活

用した市民活動団体に、掲示用として1枚にまとめたものを作成してもらい、それをホームページに掲載する。

○委員3

質問ではなく感想として述べたい。資金調達講座は5つの市民活動団体から8名という規模は少ないものの、企画の趣旨としてはすばらしかったと思うので、ぜひ広報を拡大しながら継続していただけたら嬉しい。もう一つ、市民活動交流会について、写真や文章を見る限りとてもよい会であったと感じている。この雰囲気が続けていけば交流やつながり、学びの場になってくると思うので、次年度も継続していけたら嬉しい。

○委員2

委員4の尽力によってとてもよい雰囲気になったと思う。その一言に尽きる。委員4はいかがか。

○委員4

反省点として、市役所との連携でいうと、会場にまったく関係のない人がいて、会場の雰囲気作りをして参加者を増やしたかった。個人的には、市民活動団体の代表のような方々と直接対話ができることが嬉しく、人柄ややりたいことを詳しく知ることができたため、個別の助言もしやすかった。今後の継続的な支援がしやすい環境を作り上げることができたと思う。皆さんがすっきりして帰られたかはわからないが、ある程度結果を見て、もう少しお話が必要だったという反省もある。

○委員長

写真を見ると30人から40人が市民活動交流会に参加しているように見えたが、実際にはそうではなかった。しかし地下のアトリエはそうした趣旨の場所であり、過去の市民活動フォーラムの取り組みを開かれた会場で見せるのはとてもよいと思った。

ふるさと亀岡まちづくり応援交付金について、昨年度から登録する市民活動団体が減っており、寄附金額がゼロ出会った団体があるのはとても寂しい。NPO法人障害高齢者就労支援センターは昨年も寄附を募集していたが寄附金額がゼロだった。事務局がこの市民活動団体と話をされたことはあるか。

○事務局

結果的に寄附金額がゼロであったことについては、まだ話ができている。NPO法人障害高齢者就労支援センターについては、令和8年以降も継続して登録したいという意思を持っていたが、事業が確定していないため登録を見送った。

○委員長

ふるさと亀岡まちづくり応援交付金は登録すれば自然に寄附が集まるものではないという話が以前も出ていた。亀岡市支えあいまちづくり協働支援金で実施しているような情報交換の場や、ふるさと亀岡まちづくり応援交付金を活用している市民活動団体向けの資金調達に関する情報交換の場など、募集以外の取り組みはされているか。

○事務局

ふるさと亀岡まちづくり応援交付金を活用している市民活動団体だけに限定した取り組みは行っておらず、市民活動交流会などへの参加を呼びかけたが参加がなかった。

○委員長

次年度の亀岡市支えあいまちづくり協働支援金の話にも関連するが、何年か前と比べると支援額は半額になっており、活動の立ち上げ時期は亀岡市支えあいまちづくり協働支援金で行い、継続していく段階ではふるさと亀岡まちづくり応援交付金を活用するという仕組みの変更があった。現状を見る限りでは、継続する市民活動団体がふるさと納税を使った資金調達という点ではまだ成功していないと思うので、改善に向けた取り組みをお願いしたい。一方で、委員3からも話があったように、資金調達やふるさと納税、亀岡市の予算以外にも多くの補助の仕組みがあるので、幅広く資金調達の方法を活用し、活動を継続していただくのがよいと思った。

○委員長

つながるフェスタについて、この委員会のメンバーも企画に協力してやっていこうということで、以前に一度意見交換をした。日程的に今日の会議が意見交換の場として適切だと思うので、皆さんからの意見や助言をいただきたい。

○委員3

広報を開始しなければならない中で、時間のない中で精一杯の検討ができていていると感じており嬉しい。もう一つ、この委員会のメンバーの意見を取り入れながら内容を改善していこうという企画自体の姿勢も美しいと思う。こうした取り組みは一つの事例であり、市役所のさまざまな部署で同様のことが起こるとすてきだと思うので、一つの事例として取り上げていってもよいのではないか。

○委員2

広報について、開催まで1か月しかないので、内容はともかく、例えば3月1日に保津川の日を開催する際に環境系の市民活動団体や自治会などが集まるので、3月20日に催しを

行うということだけでもよいので、段階的に広報を打っていかなければならないと思う。

○委員長

例えば案内のチラシが確定しない段階での第1弾の告知や、DMで送る案内などがあれば、自分もSNSに掲載することは頑張る。この委員会のメンバーも市民活動団体に関わりがあるので、そうしたつながりを通じて参加者を集めていければと思う。亀岡市以外の市民活動団体との交流について、自分は福知山市で市民活動を行っており、月1回能登半島に支援活動に行っている。そうした活動の紹介や支援の募金などをさせていただけたらありがたい。市外の市民活動団体の紹介場所を設けた方がよいのではないかなと思う。

○委員1

南丹市の市民活動団体からも同様に招待の場所を設ける方がよいという話を伺っている。

○委員長

市民活動をされている方は他の地域で活動する市民活動団体と知り合う機会が少ないと思う。そうした場があれば刺激になるのではないかな。

○委員長

募金活動を行ってもよいかな。

○委員1

よい。

○委員2

さまざまな出展がある中に、市が市民向けに募集している取り組み、例えば環境分野や福祉分野の地域貢献活動の仕組みなど、各担当課が募集しているものがわかるような場所も設けていただければよいと思う。市民活動団体だけでなく市役所側からの募集も含めて、展示板だけでもよいので、資金調達の紹介やこういう制度があるとわかるようなブースがあればいい。

○委員1

市の担当課とも連携し、助成金の情報などを出展の場として情報提供できるようにしたい。市としての出展はないが、市では市民活動団体を募集しようとしている。亀岡市役所全体としての出展ではないが、福祉や環境といった分野であればどうか。

○事務局

担当課とも調整する。

○委員長

関係する担当課に一般ブースを持っていただき、助成金の紹介を何らかの形でされと思うので、市も一緒に取り組んでいるということを目に見える形にすることが大事だと思う。

○委員長

この取り組みの名称について、今回は「市民活動つながるフェスタ」としているが、この委員会の中ではこれまで「市民活動推進フォーラム」という名前で話をしていた。昨年はどうのような催しを行ったか。

○事務局

昨年度は実施していなかったが、令和5年度は市民活動推進フォーラムであった。

○委員長

継続して実施していく場合、名前を決めて第1回第2回と回を重ねていくという考え方もあるし、その都度集まったメンバーで主題も決めて自由にやっ払いこうという考え方もある。今回は初めてなのでこの名称でよいと思う。

○委員3

次年度以降の話になるが、企画の趣旨がぶれていると思う。一般市民と市民活動団体がつながろうという企画なのか、市民活動団体同士がつながろうという企画なのか、狙いがまとまっていない。分けてしまって、市民活動団体間でつながろうという催しの中に市外の市民活動団体との交流などを入れ、一般市民向けは一般市民向けで別の枠組みで行うのか、切り分けた方がよいと思う。今回は午前中が内部でのつながりで午後が一般向けというような形だが、一般向けをやるなら一日を通して使った方がよいということを次年度の計画として考えるべきだと思う。

○委員長

今回の市民活動団体間の意見交換の場はどこで行うか。

○委員1

市民活動団体の数にもよるが、午前中はどこも空いているのでコンベンションホールで行うか、かめおか市民活動推進センターの交流サロンで行うかのいずれかである。まだ募集をしているところだが、かめおか市民活動推進センターの登録団体81団体のうち、過去2年間は約25団体ぐらいが参加しているので、同規模であればコンベンションホールで実施

する。

○委員長

これは市民活動つながるフェスタの前半と後半のような形か。

○委員 1

あくまでも内部の意見交換があるので、一般の方に入っただけなのは午後だけである。

○委員長

つながるフェスタの主な目的は市民活動団体と市民がつながることか。

○委員 3

市民とつながるという部分をどう評価していくのかについて、過去の事例を見ると文化祭的な取り組みになってしまっていると思う。文化団体が進めているものと似たことをやっても差別化できない。資金調達の強化に特化してもよいのではないか。寄附集めや飲食の提供を行うなど、この場で市民活動団体が不足していた資金を集めませんかという形にしても面白い。

○委員長

今年度は南丹市の市民活動団体が寄附集めをするし、自分もそういう意味では寄附集めをする。それを来場者に見ていただいて、寄附を集めるだけでなく、集めていること自体が市民にとって楽しみになればと思う。寄附募集の様子を見ていただいた上で、次回も大きな柱に据えるなど含めて検討いただけたらと思った。市民活動つながるフェスタという名称について、「市民活動」は題名に入るのか。

○委員 1

かめおか市民活動推進センターの登録団体に配布しているものにはわかりやすいように「市民活動」を入れた。何のつながるフェスタかわかるように「市民活動」と入れたが、過去のつながるフェスタでは「多文化共生」という言葉をつけていた。市民活動に限定しないのであれば別になくてもよいと思うが、皆さんはどう思うか。

○委員 5

「市民活動」は入れておいた方がよいと思う。「つながるフェスタ」だけでは一般の人にはわかりにくい。

○委員 6

「市民活動つながるフェスタ」でよいと思う。

○委員 7

最初は「市民活動」がある方がよいと思ったが、広く市民を巻き込むのであればなくてもよいかもしれない。市民活動団体同士のつながりが目的ならあってもよいと思うが、市民とつながることを目的とするのなら、市民の方で何かやろうと思っている人、情報が欲しい人、つながりたいと思っている人だけでなく、そこまで意識はないが偶然知った人が来ると面白い。それなら何の催しかわからなくても面白い。

○委員 8

何を対象にするか見えていないので、市民活動をされている方向けにしているのか、市民向けに大きく催しをしているのかを確認したい。例えば市民向けの催しであれば、キッチンカーは午前中から午後をまたいだ形でないと難しいと思う。

○委員 6

そもそもこの催しはどのような目的で行っているのか。

○委員 1

かめおか市民活動推進センターは公益財団法人生涯学習かめおか財団が管理しており、81の市民活動団体が亀岡市内で活動している。そうした市民活動団体を市民に知っていただく機会や、市民活動をしたいと思っている市民の方が活動を見て触れて体験し、実際に活動に参加してみる機会を提供したい。また、市民活動団体同士が横のつながりを持ってもらえるような機会を、かめおか市民活動推進センターの管理者として提供することが大事な目標だと考えている。

○委員 3

委員7の話聞いて確かにそうだと思った。最初に企画書を見たときに市民活動団体同士のつながりかと思ったので、「つながるフェスタ」という名称だけ、もしくは別の名称の方が合っている気がする。

○委員長

単独で進めるのではなく話し合って提案をということで、前回委員1がすぐにLINEグループを作った。誰も意見をしなかったという理由もあるが、いろいろな人の声を聞いてやろうとすると時間がかかるところがある。今年度はそうした試みをやってみた。あと1か月だが、できればみんなでやりたい。この委員会のメンバーでも頑張って参加者を集められたらよいと思う。名前の話だが、京都市中京区の区の基本計画の推進座長をしていた際、年に4、

5回市民活動をしている人たちが集まる交流の場を開こうと思い、初年度「まちづくりサロン」という名前をつけたところ参加者がほとんど集まらなかった。市民の方から「まちづくりという名前がついている時点で行く気をなくした」という意見があった。次に「まちびとカフェ」という名前に変えたところ、毎回70人から100人近い人が集まるようになった。広く市民を巻き込んでいこうというときには、あまり「市民活動」と前面に出さない方が参加しやすいのかもしれない。一方で何をするのか、何らかのキャッチコピーでやわらかく伝える必要があると思った。

○委員3

「私たちの活動を知って」といった言葉がタイトルやチラシの中に入ればよい。

○委員長

意見が分かれているところではあるが、まず今年度は市民活動つながるフェスタで実施していただき、皆さんからの反応を見ながら次年度に検討する。

(2) 令和8年度まちづくり協働推進実施事業について

○事務局

令和8年度まちづくり協働推進実施事業案について説明

資料：令和8年度まちづくり協働推進実施事業について（案）、令和8年度事業実施予定、令和8年度亀岡市支えあいまちづくり協働支援金要項案

○委員3

次年度の変更を求めるものではないが、設立3年以内という要件を見直していただきたい。3年であることが大事ではなく、事業のスタートアップ支援だということをもっと強調し、事業を開始して3年以内という視点にしてほしい。もう一つ、要綱案の1ページ目にある対象事業の事例について、1件だけ掲載されているが、事例を示すのに1件だけでは分量として不十分であり参考にもなるので、過去の事例を拾いながら市として有用だと思うものを3つ4つ挙げていただいた方がよいと思う。

○事務局

過去の事例については、委員に配布した資料には1点だけだが、令和7年度の活用団体も含めて2、3件挙げたいと考えている。

○委員3

考え方として間違っていないのが、過去の事例を全部見せるのは少し違うと思う。市として評価できるものとそうでないものがあると思うので、全部掲載すると、あまりうまくい

かなかったものが広まることもある。その点は繊細な問題だが意識してほしい。

○委員 1

かめおか市民活動推進センターとして聞いていただきたいことがある。事前相談がかめおか市民活動推進センターで必須となっているが、昨年度からそのようにしていただいているものの、例えば2回目や3回目に申請する市民活動団体がわざわざかめおか市民活動推進センターに相談に来なければならないのか。

○委員長

事前相談の目的について、この文章を読むと初めて申請する人は一度相談に行くという文章に読める。2回目や3回目でも申請の仕方をわかっている、事業をどう展開していったらよいかという相談は非常に大事だと思うので、そうした相談もできると伝えていくことも大事である。一方で、相談を受けている委員 1 の側で、そこまで支援相談に応えられる人的資源が十分にあるわけではない。

○委員 3

事前相談を必ず行うようにしてくれという話ではなく、かめおか市民活動推進センターに相談に行くという関係性の構築のためにこの仕組みを使えないかという話である。申請の仕方や申請のために来るのは本来の趣旨とは違うと思う。必ず行くと書かれたら行かなければならないから行く場所になってしまい、本当に関係性を構築できるのかという話になる。もう少し穏やかな表現でもよいのではないか。例えば、申請する前に一本電話をくださいとか、お話を聞かせてくださいとか、そうした感じで伝える表現の方がよい。必ず行くと書いてあるときつい感じがする。南丹市の事例では、電話やメールなど何でも相談を受け付けると書いている。職員が不足してもできる。

○委員 6

相談というのは直接会っての話し合いを必須としているのか。

○事務局

直接会っての話し合いを想定しており、昨年もすべて直接会う形として、来ていただいてお話をすることを前提としていた。

○委員 6

それなら初回のみ必須とすればよいのではないか。

○委員長

初めて申請される方は技術的な書き方があるので直接会っての話し合いを必須としている。

○委員 6

要するにわからない人は相談したらよい。見たらわかるという人は書けばよい。

○委員長

よい事業であっても提出された申請書だけではそれがきちんと伝わるのが難しい。

○委員 3

聞き取りや書き方の話であれば市で受けたらよいという話になる。かめおか市民活動推進センターで行うことの意味が大事ではないか。かめおか市民活動推進センターを知っているし、関係性が増えた方がよい。

○委員 1

かめおか市民活動推進センターにはさまざまな助成金の情報があるので、昨年も相談に来られた方に亀岡市支えあいまちづくり協働支援金ではなく京都府の助成金の申請を紹介した事例がいくつかあった。有意義だとは思いますが、必須となっていると「とりあえず行かなければならないから来た」となってしまう。昨年も3回目の市民活動団体が必須となっているから来たということがあった。見せていただいた中でこうした方がよい、こう思うという話はいろいろできるので有意義ではある。しかし申請する側が必ずかめおか市民活動推進センターを経由しなければならないとなっているのがどうかと思う。昨年も3回目の市民活動団体にはメールで送ってもらい、内容を確認し、実際に来てもらって話をするなど、うまくできているところはある。やり方はいろいろあるが、必ずという点と、毎日その体制が整っていないことが課題である。昨年も市役所に行った方が、かめおか市民活動推進センターに行ってくださいと言われた事例もあったので、もう少しうまくできないかと思う。

○委員 6

担当者がいるかいないかということに関しては、事前に連絡の上で相談をお願いしますと書いてある。

○委員 1

文字が小さいので読まずに来る人がいる。

○委員 9

事前相談について、自身が関わっている基金や助成金などでも同様の仕組みになっているが、事前相談会の日をあらかじめ設けてしまって、なるべくその枠で来てもらい、どうして

も無理な場合は個別対応するとしている。人数は少なく3人程度だが、申請してくれる市民活動団体も少ないので、それでも運営できている。

○委員3

その枠で来てもらい、それで無理な場合は個別対応するという形がよい。

○委員1

なるほど。それが一つの案である。事務局でも日をいくつか設定してもらうか、曜日を設定してもらうという案が出ている。

○委員3

説明会を開く機会があるので、説明会の後半に時間を取って相談の場を設けるのもありかと思っただが、2年目や3年目の市民活動団体はそこに行くわけではないので、それは別の話である。

○事務局

説明会は4月の年度当初に実施しようと思っている。そこで相談いただくのは一つの方法かもしれないが、申請書を持って相談に来てほしいと考えている。あらかじめどの程度のことを考えておられるかを確認し、それをより良くすることもあるので、何もない状態で相談に来てほしいということではない。かめおか市民活動推進センターと市のことなので、いただいた意見を参考にしながら、どのようにするか検討する。

○委員長

他に意見はないか。市民活動をされている側として、委員5はどうか。

○委員5

2度でも3度でもかめおか市民活動推進センターに行くことについて、かめおか市民活動推進センターに行ったら何か聞いてもらえるかなという気持ちがある人たちが行くと思う。だからそういう体制にして、2年目や3年目でもかめおか市民活動推進センターに行って自分たちの活動を伝えてくださいということであれば、逆に用がなくてもギャラリーかめおかに来たからのぞいてみようかという感じにしていだけるとよい。

○委員長

日常的な相談と亀岡市支えあいまちづくり協働支援金の相談の両方があると思う。正式な相談に関しては、NAWASHIRO 基金の委員9から少ない人員の中で工夫しているという話があった。相談はいつでもということではなく、しっかり日程を明示した方が、逆にそれを目標に市民活動団体が相談に行ける。また、いつ行っても相談に対応できる職員がいるわけでは

ないのが現実なので、そうした職員がいつ対応できるのか見える形にする部分が必要だと思った。曜日を固定して交代制の勤務が組めるのか難しいのかはわからないが、行って相談に乗ってもらえなくて帰ってくるのは寂しいので、相談の見える形での整理をしていただけたらと思う。

○委員長

この相談については事務局と委員1で相談いただき、市民も主催する事務局もお互いに続けられる相談の形を検討いただきたい。

○委員長

ふるさと亀岡まちづくり応援交付金についてはいかがか。

○委員3

伸びきれていないところがある。何か工夫を入れないとどうしようもないと思う。ただ一方で、継続的に寄附を集めている市民活動団体、例えば一般社団法人育ちとつながりの家ちとせなどがここまで集めている状態にあるので、そうしたところの知恵や工夫を学び合うような場を一定設けてもよいのではないかと思った。現在手を挙げている市民活動団体だけでなく、過去に手を挙げた市民活動団体も交えながら知識の共有をしてもよいと思うので、検討いただきたい。

○委員長

市民に向けた協働に関する事業として4つ挙げていただいている。加えて、次年度は若い世代や学生の参加を促進したいという重点目標があるので、そのことについても意見をいただきたい。

○委員3

かめおか市民活動推進センターの事業はここには入らないのか。ここに入ってしかるべきものがあるような気がする。一覧にないのはなぜか。市民活動推進フォーラムはかめおか市民活動推進センターの委託事業の中に入っていると思い込んでいたが、違うのか。市は市で予算を立てて、財団は財団が主体となってい、それが共催という形で協力しているという理解の方が正しいのか。できれば財団に委託して、委託した上で協力する形の方が予算の自由度も上がるし、企画も盛り上がると思う。

○委員3

来年度の事業の市民活動推進フォーラムで会場で行う3月の分は、つながるフェスタと同じことと考えてよいか。この一覧の中にかめおか市民活動推進センターの事業が入ってい

ないのはどういう意図か。

○事務局

これまでもかめおか市民活動推進センターの事業は入っていない。

○委員長

今年度、重点目標の話をしたときも、かめおか市民活動推進センターの充実はこの委員会で非常に大きな話題として上がっている。そういう意味ではこの委員会として、かめおか市民活動推進センターの在り方を引き続き議論するのは当然のことである。

○事務局

在り方や充実ということで令和8年度亀岡市まちづくり協働推進実施事業の中に挙がっている。

○委員長

であれば、令和7年度まちづくり協働推進実施計画案の項目にもかめおか市民活動推進センターについて、別立ての項目もしくはその中で市民活動推進フォーラムなど、この委員会として設定していくという整理の仕方もある。

○委員1

かめおか市民活動推進センターの主催というか、かめおか市民活動推進センターを管理している公益財団法人生涯学習かめおか財団が主催である。

○委員長

かめおか市民活動推進センター主催はわかりやすいが、財団主催というのがわかりにくい。

○委員長

いつまで市直営でされていたのか。

○事務局

市直営でしたことはない。

○委員6

市民力推進課が公益財団法人生涯学習かめおか財団に委託をしているということか。運営を委託しているということか。

○委員 3

市民活動推進フォーラムは補助金を出している。

○委員長

我々は亀岡市まちづくり協働推進委員会として、まちづくり協働推進の中で重要な役割を果たしているのはかめおか市民活動推進センターである。かめおか市民活動推進センターの事業や現状について、ここで意見交換するのは非常に自然なことであり、それをしないとこの委員会の役割を果たせない。今まで議論してきたと思う。

○事務局

かめおか市民活動推進センターがうまく機能していないのではないかとこのところから、この会議でも議論をしていただいた。それ以前は、かめおか市民活動推進センターは委託で管理運営していくということで、この場にかめおか市民活動推進センターをどうにかしないといけないというような話や委託の内容までは議論していなかった。

○委員長

今年度ワークショップをしたときには、かめおか市民活動推進センターの役割はとても大きいということになった。今後は委員会での議題としてしっかり挙げていた方がいい。それをチェックするということではなく、応援するという意味合いである。

○委員 6

実際、ホームページを探してもなかなか見当たらなかったり、ホームページから登録できるとよいが、補助金を受けるとかいろんなサポートを受けるについて、市に言ったらいいのかかめおか市民活動推進センターに行ったらいいのかがネットでしか見ていない人たちには見つけられないような気がする。見てもほとんど更新されていないし、Facebook も 1 年に 1 回載っているかぐらいである。それでは、せっかくそういう組織があるのに市民に行き届かないと思う。関心を持っても見つからなかったらそのまま終わってしまう人たちも結構いる。その辺りを議論する項目としてここに挙げるのが一番大きい話かもしれない。

○委員 3

項目に上がっていないと議論しづらい。

○委員長

設置要綱等も含め経緯もあると思うので、次年度以降、かめおか市民活動推進センターについての議論をこの場でどういう形でするのが準備をしていただきたい。あと、市民活動見学会もすごくいい取り組みだと思った。市民の声としても、近所に住んでいる人がどこで何を

やっているかわからず不安を持っていることが多い。そういう意味では、こういう機会を市民活動団体も活用し、その活動を市民に広げていくことが大事である。参加者1名は非常に寂しいと思う。市の担当課で広報するということだけでなく、その団体とどんな人に来てもらったらいいか相談し、近所にチラシを配るなど、見学を実施してくれる団体と相談しながら進めていただけたら有効に使えると思う。

○委員3

説明会にしても市民活動交流会にしても、継続的に続けていってほしい。開催のノウハウをどんどん積み上げていくべき項目ばかりだと思う。そういう意味では、ここにかかっている経費について、市の職員の人件費が多いのかと思うが、そういうお金を寄せ集めて、財団の委託事業なり補助事業なりにオンし、財団の中でこの事業に専業できるスタッフを増やしてあげるとするのが、今後の市民活動推進の伸び率として大きなことだと思う。先ほど運営体制としてやりきれないという話もあったし、その体制を取れるだけのお金を集めてくる、バラバラにやっているものを1つにまとめていくような経営戦略的な視点をもう少し持った方がいいと思う。見学会についても、そのノウハウは人事異動でどんどん失われていくので、財団の方でした方がいいのではないと思う。

○委員長

お金はどこもないが、そういう工夫はしたいところである。

○事務局

かき集めてももう1人雇えるほどの予算はない。

○委員3

ここにかかっている人件費の金額は出されていないだけではないか。

○事務局

そういうシステムではない。人件費を削るということは課の人数が減るということになる。市民活動の事業だけをしているのではないので、ご意見としてはいただしておく。

○委員3

事業費として積み上がっていかない人件費の金額という全体的な話があるので、特にどう言いたいわけではないが、そういう思考も大事にしてほしい。

○委員2

亀岡市支えあいまちづくり協働支援金の表紙について、委員1の話を聞いて、事前相談必須

というところで面談必須とは書いていないので、電話番号とメールアドレスを大きくして、「まずここに連絡してください」でいいのではないかと思った。一番簡単な方法として、電話かメールで連絡してくださいの一言で解決するかもしれない。

○委員長

ありがとうございます。説明会とあわせてご検討いただきたい。

○委員 3

南丹市でやっている事例を紹介する。これまで3つほどの柱で事業をやってきた。市民団体の活動について大学に出向き、大学生が何人いてどんなスキルを持っているかをむしろ団体側が大学で学び、そこで交流してつながりを作るという取り組みは結構成功した。2期目にやっていたのは、各団体が学生を募集して一緒に企画づくりをし、学生の企画を実行するというものだったが、早々に廃止した。背景としては京都府が同じことをやっているため、市としてそれをする必要はないと判断した。今やっているのは完全にボランティア募集の体制である。JRの各駅にボランティア募集の学生向け専用チラシ置き場を設置して、各団体が募集をかけている。その成果で多くの学生がいろんな関係でボランティアに行ったり、中には活動に深く関わる学生も出たりしているので、そういった広報活動もありだと思う。

○委員 4

どこにどういうふうに学生を巻き込むかが必要だが、1年間の活動を通じて学生を、それ以外の方も含めて巻き込んでいくということについて、やはりデジタル利用が弱いのはすごく感じている。委員3がおっしゃったような広告的なものや、団体自体が学校に行くというPRの2つがポイントとして重要だが、やはり今の学生はインスタやSNSから申し込めるとハードルがすごく下がる。予算が必要になるかもしれないが、市民活動オンラインサロンのようなものを作り、そこにインスタや広告を通じて無料で招き入れることができれば、一括で情報を拡散できる。世の中には無料で使えるツールも多いので、そういうものを使って学生に最後ボタンを押させるというのは1つの方法である。また、亀岡市はインスタの広告で移住促進を出しているのも、そういうものの中に利用させてもらうというやり方もある。

○委員長

デジタルを活用するという話があったが、具体的にどんな形でやるかは難しいと思う。例えば、今回つながるフェスタの準備で何人かがオンラインで会議をしたが、そういう前提のときに学生がオンラインで入ってもらってサロンのように意見交換をするなど、準備段階で学生が関わる機会を作れたらとても有効だと思う。

○委員長

以前、亀岡市支えあいまちづくり協働支援金で学生枠はあったか。

○事務局

ない。ご意見はいつもいただくが、少額の予算の中では難しい。

○委員4

学生の集客は、できればチャレンジしたいと思う。市民活動つながるフェスタに出展される団体が何をされているのか今日は聞けなかったが、活動を周知してもらうことも大事だし、交流をすることも大事である。出展者同士の交流も大事だが、一緒に活動する人を増やしたいという想定がある。人手が足りない団体もあるので、そういう方には一般市民や学生を集めて協力者を募集できるというコンテンツを、今後は1つの内容に入れるべきではないか。そうなると学生に対してPRの仕方が変わる。市民活動団体をサポートするボランティアをすることで就職活動に役立つガクチ力を作りませんかという伝え方にすれば、学生も自分のために参加するということになり、まずは話を聞いたり会場に足を運んだりすることが少しでもできるのではないかと思う。

○委員長

小さくてもできることから試したい。3月20日まであと1か月だが、先ほど紹介をするという話があったので、そこに学生団体をどこか1つ招待してみるのもあるかと思った。自分は1つ声をかけてみようと思う。皆さんの中でも学生が活動しているのを市民に紹介したいという活動があれば声を上げていただきたい。委員4も含めて、全く新しいことを始めるのは難しいので、今ある枠の中で少しでも学生に関わる機会を作っていけたらと思う。

○委員2

学生のところで、高校にそういう活動をしている部活等があるのであれば、発表だけでも「こういうことをやっている」と提示してもらったら、地元の学生が提示すると関係者も見に来てくれるのではないかと思う。

○委員長

探究学習をやっているので、多分ネタもあると思う。それを誰が段取りするかである。段取りしてあげるという方がいらっしゃったら、ぜひ手を挙げていただきたい。事務局にこれをやってくださいと言いたいが、なかなか現実それでは動かないということもある。すごくいいアイデアだと思う。生徒会に声をかけて生徒会のメンバーが来たりということもある。

○委員3

南丹の学校では、農芸高校などは地域に出て行って前向きである。実習する予算がついてい

ないので、自分たちで野菜を売ったり牛乳を売ったりしないと牛のえさ代も買えない。稼ぎに来てくれというメッセージがわかりやすくある。須知高校などもある。この20日に向けた話ではないが、次年度に向けてということである。

○委員長

農業の高校は販売してその収益で農園を動かしている。豆を買ったり農薬を買ったりしているので、それは面白いテーマとしても農業は非常に大事である。

○委員長

ありがとうございます。なかなか初めてのことも多いが、アイデアを共有していただき、皆さんからまた上げていただきたい。横でも面白いことがあれば、どんどん試みていただけたらと思う。

○委員2

亀岡市支えあいまちづくり協働支援金を活用されているはるのひー春日部を未来につなぐ会一がチラシを持って来られた。お寺でひな祭りということで、3月1日から4月4日まで開催している。

○委員3

南丹市の日吉町で映画づくりをしている。つながるフェスタのオンライン企画会議の中でも話題になっていた映画だが、私も制作チームに参加している。来年度5月6日に亀岡で上映会をするので、ぜひ来ていただけると嬉しい。2作目の作品には自分も出演しているので、ぜひ見ていただけると嬉しい。この映画は亀岡にゆかりがある映画で、日吉ダムや天若湖でも撮影に行った。ぜひ来ていただきたい。

○委員4

情報工学を学んでいる学生たちが小学生に対してロボット操縦体験を行う。今年は予約がもういっぱい状態で、市民ホールで朝からやっている。もし遊びに来られたらぜひお越しいただきたい。2つ目の告知として、関西春のロボコンイベントがある。約350人の学生が西日本全域から集まり、40チームが参加する。巨大企業もスポンサーに入り、ブースを出展いただけるようなイベントまで成長したので、ぜひお越しいただきたい。

○委員長

ありがとうございます。用意していた議事は以上とする。皆さんご協力ありがとうございました。では事務局にお返しする。

○事務局

本日はご協力いただきありがとうございました。今回いただいた意見については、今後の事業に反映していきたい。次回の委員会については来年度6月に、主に亀岡市支えあいまちづくり協働支援金の申請事業についてご意見をいただく予定である。ご指摘いただいた支援金の募集要項などの最終確定に向けて、引き続きご協力をいただきたい。